柴田安彦の市政報告

No.527　２０１２，７，１

発　行　蒲郡市議　柴田安彦

蒲郡市清田町沖田５８番地１　TEL/FAX ６７－６９６４

ホームページ　http://yas.sub.jp

Eメール　yas@xk.sub.jp　ブログ　http://blog.yas.sub.jp

東三河６市町村の「ふるさと元気」支援事業

疑問残る2.2億円の補助事業

80才以上の20,000人のうち13,500人にスマートフォン普及？

一般質問で、柴田は東三６市町村がおこなった「ふるさと元気」事業（総務省の全額補助、２・２億円）について質しました。

事業は、消防や警察にワンタッチで電話できる機能などを載せたスマートフォンを高齢者に普及し、高齢者福祉充実と雇用の拡大をはかるというものです。

事業は、１０００台のスマートフォンを80才以上の高齢者に無料で貸し出し、体験してもらうものです。その後、有料契約で１万３５００人に普及する計画でした。

事業区域（衆院・愛知14区）の該当高齢者は約２万人で、68％の方が利用するという、当初から達成困難なことは明白な事業です。

実際、無料の１０００台すら利用者がなく、対象者を65才以上に引き下げました。無料期間が終わると次々と解約がつづき、有料契約者は20名あまりしかありません。また補助金の請求に、期間外の通話料が含まれていたとして４５００万円の補助金返還が求められると同時に、購入機器の不使用も報告されています。

総務省は委託先選定について「公募の２社から選定しているが、もともと委託会社からアイデアを得て補助事業に応募している。申請に必要な相見積もりも、この会社に依頼して間接的に入手している」と、不透明さを指摘しています。

補助事業に応募した経緯について、市は「地元代議士事務所の紹介だった」と答えました。事業を中心的に進めた豊川市に、委託先の㈱ウェッブアイ（本社・東京）との関係を尋ねると「代議士事務所の紹介で知った」と答えました。

総務省から休眠状態のスマートフォン１０００台の活用を求められ、市は新たに通話機能を除き、ｗｉ－ｆｉ接続だけに限定して無料貸し出しをする計画です。

事業報告書では「ほぼ全ての高齢者がインターネット環境から情報を入手できる」としていますが、「有料利用する高齢者はほとんどいない」とすべきです。

国の全額補助事業とはいえ、十分な検討も経ずに、事業に飛びつくことのないよう求めました。

観光ビジョン推進委員会との意見交換

マラソンコースで来客増を

ランナーの希望は信号のない練習コース

議会と観光ビジョン推進委員会との意見交換が行われました。改訂されたアクションプランでは、蒲郡の総合力や広域連携が強調され、オンパクの継続などが提起されました。

柴田は、健康志向やマラソンブームで広がるランナーの要望を満たしながら、観光産業にもプラスになる対策を提案しました。

練習するランナーは、信号機に止められることなく自分のペースで走りたいとの希望を持っています。そこで、海岸沿いなどに5㎞程度のランニングできるルートを開発することを提起しました。

西浦のシーサイドロードなどは、平坦で初心者や高齢者にも無理がなく、抜群のロケーションで魅力があります。三谷から大塚への海岸線も工夫すれば信号機のないルートを開発できる可能性があります。

もう一つの希望は給水とトイレです。これは公園とそこに設置する自販機でまかなうことが可能です。

ルート近くの旅館などが着替えの場と荷物の預かりを引き受け、走り終わったランナーにシャワーや温泉を提供し、さっぱりしたところでスウィーツや食事を楽しんでもらう企画です。日帰り入浴やバイキング料理をおこなっている旅館なら、それに合わせたメニューも考えられます。ランニング前のバナナサービスや宿泊客へのシューズの貸し出しなど、魅力アップも工夫次第です。

予算をかけて大会を開くのではなく、まずは練習コースとして定着させ、層の厚いマラソンやジョギングの愛好者を取り込むのが主眼です。ランニングコース開発で、来客増をはかれないか研究をつづけます。

双眼鏡

区画整理の仮設住宅明け渡しを求める2件の訴訟議案が提出された。医師会といい、旧ふきぬきを買った聖法寺といい、市は問題解決を裁判に頼りすぎていないか。

3年前の一般質問で、仮設住宅の長期占有を解決するよう求めたが、訴訟という方法は想定外だ。市は、2件の訴訟に400万円の予算を付けた。「区画整理に精通した弁護士に依頼するため」と答えるが、市に落ち度はなく、負けることのない簡易な案件だ。

訴訟を起こす前に、改めて立ち退き交渉を行い、訴訟費用を使わない努力をするよう求めた。